

平成29年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	商工業振興に要する経費	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	7	1	2	
政策	33活力ある産業を育成します	担当課室	商工振興課			
施策	332魅力ある商業の育成	担当課室長	葛山 順一			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	街路灯の維持管理に係る費用負担を軽減するため、各商店会に対し街路灯のLED化を推進する。	③平成29年度に取り組む改革・改善内容	街路灯(水銀灯)のLED化を推進することで、固定費を抑え、商店会の活性化に必要な事業費を増加させる。事業費の増加は、イベント等の拡充となり、地域活性化につなげる。
②①に基づく取り組み結果	街路灯のLED化を推進する結果、市内の1商店会(グリーン通り商店会)が街路灯のLED化を達成した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	商工会、商店会連合会、ドリームカード会、市内14商工業振興団体	意図(対象をどうするのか)	補助金の交付を通じて商店街等の振興を図る。
②事務事業の概要	市内に存在する企業の大半を占める中小企業や経済活動を行う団体に対して、補助金交付やイベントの共同実施などで支援を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	全庁的に補助金の見直しが行われた昭和63年に、商工会等の活性化及び育成のため創設された。ここ数年では、大型店や全国展開チェーン店の出店により、既存の商店街は厳しい立場に置かれている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成28年度の事業の成果	商工会及び商店街の活性化・育成を図るために補助金の支出を行った。						
②成果を表す指標	指標名称	平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	算定根拠	
	i	補助金交付額	21,955	28,229	28,874	千円	業務取得
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	平成27年度決算	平成28年度決算	平成28年度決算(事業費)の主な内訳		平成29年度予算		
事業費(千円)	30,333	31,708	金額(千円)	内容	24,013		
	国支出金(千円)	4,000	23,236	商工業振興補助金			
	県支出金(千円)		3,847	創業事業者支援補助金			
	市債その他(千円)						
	一般財源(千円)	26,333	31,708		24,013		

IV 評価・検討

①課題	電気料金の上昇などにより、各商店会で保有する共同施設(街路灯)の維持管理が困難となっている。固定費の支払い増が、商店会運営の圧迫に繋がっている。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	補助金交付基準の精査・検証を行うことで、商工業振興団体の現状に則した支援を可能にするため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成28年度の計画	平成28年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H27からの繰越
		H27⇒28繰越			
③達成状況		補正			現年分
④未完了・非着手の理由	流用・充当				
	平成29年度への繰越額(単位:千円)				

平成29年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	空き店舗活用事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	7	1	2	○
政策	33活力ある産業を育成します	担当課室	商工振興課			
施策	332魅力ある商業の育成	担当課室長	葛山 順一			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	より多くの方に活用してもらえよう周知を強化していく。	③平成29年度に取り組む改革・改善内容	より多くの方に活用してもらえよう周知を強化するとともに、利用者への事業継続支援を行う。
②①に基づく取り組み結果	市内公共施設13箇所、市内金融機関6箇所、商工業振興団体14箇所、空き店舗活用事業所7箇所に周知した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市内に出店しようとする者	意図(対象をどうするのか)	店舗数の増加による地域の活性化
②事務事業の概要	賑わいの創出を図るため、商店街の空き店舗を活用し、出店する人に対し、店舗改装費の総額2分の1(上限100万円)を補助する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	市内商店会については、売上減少や後継者問題等により店舗の閉店が増加し、シャッター街化している商店会が少なくない。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成28年度の事業の成果	5件の補助金交付決定をした。						
②成果を表す指標	指標名称		平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	算定根拠
	i	補助金交付件数	—	7	5	件	業務取得
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	平成27年度決算	平成28年度決算	平成28年度決算(事業費)の主な内訳		平成29年度予算		
事業費(千円)	6,602	5,000	金額(千円)	内容	5,000		
国支出金(千円)			5,000	空き店舗改装費補助金			
県支出金(千円)							
市債その他(千円)							
一般財源(千円)	6,602	5,000			5,000		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	依然として、市内には多くの空き店舗がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	商店街の空き店舗を活用し、集客に役立つ施設及び店舗の開店など、賑わいの創出を図っていく必要があるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成28年度の計画	補助金	平成28年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	補助金を支出した。	5,000	5,000	当初	5,000	5,000	H27からの繰越
				H27⇒28繰越			現年分
③達成状況	完了			補正			
④未完了・非着手の理由				流用・充当			
		平成29年度への繰越額(単位:千円)					

平成29年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	観光ビジョン推進事業	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	7	1	4	○
政策	33活力ある産業を育成します	担当課室	商工振興課			
施策	332魅力ある商業の育成	担当課室長	葛山 順一			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	引き続き、新たな観光振興策への着手、タウンミーティング等のリーディングプロジェクトを通じた市民の観光意識の醸成を図る。	③平成29年度に取り組む改革・改善内容	引き続き、観光ビジョンに掲げた施策を推進するとともに、新たに、地方創生推進交付金を活用した、「インバウンドモニターツアー」をワカタネ市長訪問団の来訪と併せ実施するなど、事業の拡大、内容の拡充をし、市民の観光意識の醸成を図る。
②①に基づく取り組み結果	新たな観光振興策として、「訪日外国人おもてなし講座」を開催した。また、タウンミーティングや高校生フォトコンテスト等を開催し、市民の観光意識の醸成を促した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市民及び市内事業者	意図(対象をどうするのか)	事業を通して市民・市内事業者の郷土愛を育て、市外住民へのおもてなしの心を醸成する。
②事務事業の概要	鎌ヶ谷市観光ビジョンに沿った観光振興策により、まちの活性化を図る。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	市民や事業者を巻き込んだ事業が増加していく中で、今後市民が自立的に活動を広めていくことが理想的である。こういった市民の活動に対する補助施策の検討なども必要と考えられる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成28年度の事業の成果	ファイターズを共有資源とする北海道札幌市や沖縄県名護市・国頭村にて、市長によるトップセールスを実施した。また、本市をはじめ県内の地域の魅力を再発見するため、高校生フォトコンテストを開催した。						
②成果を表す指標	指標名称	平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	算定根拠	
	i	高校生フォトコンテスト応募作品数	166	123	130	作品	業務取得
	ii	北海道、沖縄県での観光イベント実施回数	—	1	2	回	業務取得
iii							
③事務事業のコスト	平成27年度決算	平成28年度決算	平成28年度決算(事業費)の主な内訳		平成29年度予算		
事業費(千円)	20,308	11,930	金額(千円)	内容	5,973		
国支出金(千円)	17,955	10,717	4,700	手数料	2,854		
県支出金(千円)			2,167	商工業振興補助金			
市債その他(千円)							
一般財源(千円)	2,353	1,213			3,119		

IV 評価・検討

①課題	市民や事業者を巻き込んだ事業が増加していく中で、今後市民自らが自発的に市の魅力を広めていく体制を整えていく必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	1低い		
③上記評価の理由	観光ビジョンの実現に向けて、より具体的に施策を推進・拡充していく必要があるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成28年度の計画	観光ビジョン推進事業	平成28年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	訪日外国人おもてなし講座の実施 北海道、沖縄県での観光PRイベントの実施	1,240	12,730	当初	2,244	11,930	H27からの繰越	10,717
				H27⇒28繰越	11,490			
③達成状況	完了			補正	-1,004		現年分	1,213
④未完了・非着手の理由		平成29年度への繰越額(単位:千円)						